

すなわち、生産的および不生産的労働について

「労働には、生産的労働および不生産的労働という二つの部類のものがある。」

労働には、それが加えられる対象の価値を増加させる部類のものと、このような結果を全然生まない別の部類のものがある。前者は価値を生産するのであるから、これを生産的労働と呼び、後者はこれを不生産的労働と呼ぶ。製造工の労働は、一派に、自分が加工する材料の価値に、自分自身の生活維持費の価値と、自分の親方の利潤の価値とを付加する。これに反して、召使いの労働はどのような価値をも付加しない。製造工は、自分の賃金を自分の親方から前貸ししてもらってはいるけれども、こういう賃金の価値は、一般に、自分が労働を加えた対象の増大した価値のうち利潤をとらなくなって回収されるのであるから、実は主人にはなんの費用もかからない。ところが、召使いの生活維持費はけっして回収されないのである。人は多数の製造工を使用することによって富み、多数の召使を扶養することによって貧しくなる。

とはいえ、後者の労働もその価値をもっているのであって、前者のそれと同じように当然その報酬をうけるべきものである。しかしながら、製造工の労働は、ある特定の対象または売りさばきうる商品にそれ自体を固定したり実現したりするのであって、こういう商品はこの労働がすんでしまったあとでも、すくなくともしばらくのあいだは存続するものなのである。それは、いわば、ある他の場合必要に応じて使用されるために、貯蔵され貯えられる一定量の労働である。この対象、またはそれと同一のことであるが、この対象の価格は、あとになってから、はじめにそれを生産したのと等量の労働を活動させることができる。これに反して、召使いの労働は、ある特定の対象または売り場器うる商品にそれ自体を固定したり実現したりはしない。かれの労務(サービス)は、一般的にはそれがおこなわれるまさにその瞬間に消滅してしまうのであって、あとになってからそれと引き換えに等量の労務を獲得しようとするところの、ある痕跡、つまり価値をその背後にのこすということがめつたにないのである。

「召使の労務以外にも、多くの種類の不生産的労働がある。」

社会のもっとも尊敬すべき階級に属するある人々の労働は、召使いのそれと同じように、価値についてはまったく不生産的なのであって、この労働は、それがすんでしまった後まで持続したり、あとになってからそれと引き換えに等量の労働を獲得いえたりするところの、ある恒久的な対象または売りさばきうる商品にそれ自体を固定したり実現したりはしない。たとえば、主権者ならびにその下に奉仕する司法および軍事の一切の官吏も、陸海軍人も不生産的労働

者である。かれらは皇居社会の使用人なのであって、他の人々の勤労の燃年の生産物の一部分によって扶養されている。彼らの労務は、たとえそれがどれほど名誉あるものであり、どれほど有用で、どれほど必要なものであろうとも、あとになってからそれと引き換えに等量の労務を獲得しようなものも生産しない。国家の保護・安全および防衛、すなわち本年におけるかれらの労働の成果は、来年におけるその保護・安全および防衛を購入しないであろう。これと同一の階級に位置づけられなければならないものは、もつとも莊重でもつとも重要な職業であるものと、もつともとるにたらない職業の双方がある。すなわち聖職者・法律家・医師・文士・俳優・道化師・音楽家・オペラ歌手・オペラの踊り手等々がそれである。これらのなかでもつともいやしいものの労働でも、ある一定の価値をもっているものであって、この価値は他のあらゆる部類の労働のそれを規定するのとまったく同一の諸原理によって規定されており、また、これらのなかでもつとも高貴でもつとも有用な労働でも、あとになってから等量の労働を購入したり獲得したりしようなものをも生産しない。これらのすべての人々の仕事は、それが生産されるまさにその瞬間に消滅してしまうのである。

「生産的な人出を扶養するために使用される生産物の割合は、翌年の生産を決定する。」

生産的労働者も不生産的労働者も、さらには全然労働しない人々もそのすべてはその国の土地と労働の年々の生産物によって等しく扶養されている。子の生産物は、たとえそれがどれほど大であろうとも、けっして無限ではありえず、必ず一定の限界をもっているに違いない。それゆえ、ある年に不生産的な人出を扶養するのに使用されるこの生産物の割合が小さいか大きいかに応じて、前者の場合にはいっそう多くの生産物が、また後者の場合にはいっそう少ない生産物が生産的な人出のために残されるであろうし、したがってまたその翌年の生産物もそれに応じて大ともなり小ともなるであろう。というのは、年々の全生産物は、もしわれわれが大地の自然発生的な生産を除けば、生産的労働の成果であるからである。

「生産物の一部分は資本を回収し、一部分は利潤および地代を構成する。」

土地および労働の年々の全生産物は；それが最初に土地かまたは生産物労働者の手かのいずれから出てくる場合には、自然にそれ自体を二つの部分に分割する。その一つでしばしば最大である部分は、まず第一に資本を回収するため、つまりすでに資本なから引きあげられた食料品・材料および完成品を更新するために、予定されたもねであり、他の部分は、この資本の所有者の資材の利潤としての収入か、またはある他の人の地代としての収入かのいずれかを

構成するために予定されたものである。土地の生産物について言えば、その一部分は農業の資本を回収し、他の部分はかれの利潤と地主の地代とを支払うというようにして、この資本の所有者の資材の利潤としての収入と、また他の人の土地地代としての収入としての双方を構成している。一大製造場の生産物についていえば、これと同じように、その一部であると同時につねにその最大の部分は、その事業の企業家の資本を回収し、他の分はかれの利潤を支払うというようにして、その資本の所有者の収入を構成している。

〔資本を回収する部分は、生産的な人出だけを使用するが、〕

ある国の土地および労働の年々の生産物のなかで資本を回収する部分は、生産的な人出以外の者を扶養するために直接に使用されることはがけつしてない。それ生産的労働の賃金だけを支払う。利潤または地代のいすせれかとして収入を構成するために直接に予定されている部分は、生産的な人出であろうと生産的なそれであろうと無差別に扶養するであろう。

人が資本としてしようするものがかれの資材のおよそどのような部分であろうとも、かれはつねにそれが利潤とともに自分の手元へ回収されることを期待している。それゆえ、かれはそれを生産的な人出だけ扶養するのに使用するのであって、それはかれに対して資本としての機能を果たしたあとで、これらの人出の収入を構成する。もしかかれがそのある部分のある種の生産的な人出を扶養するのに使用するならば、どのような場合でも、この部分はその瞬間においてかれの資本のなかから引き上げられ、直接の消費のために留保されるかれの資材のなかにくりいられるのである。

〔その一方、生産的な人出や〕

生産的労働者や全然労働しない人々は、そのすべてが収入によって扶養される。すなわちかれらは、第一にね年々の生産物のうちで、土地の地代としてあれ資材の利潤としてであれ、ある特定の人々の収入を構成するためにはじめから予定されている部分によって扶養されるか、あるいは第二に、年々の生産物のうちで、はじめは資本を回収したり生産的労働者を扶養したりするためだけに必要な生活資料を越えてあまりあるかぎり、生産的・生産的にはかわりなく、すべての人手を無差別に扶養するのにしようする部分によって扶養されるか、のいずれかするのである。

大地主または富商ばかりではなく、普通の職人でさえ、もしかかれらの賃金がかかりものであるならば、召使いの一人ぐらいはおいておけるし、場合によっては演劇や人魚芝居を見に行くこともでき、このようにして一群の一群の生産的労働者の必要に対する、分の分担の一助にしようであるうし、あるいはかれもまたながしかの租税を支払い、それによって別の一軍の人々、なるほどもつとも名誉もあれば有用でもあるが同等に生産的な人々を扶養するのに

助力しようであろう。

しかしながら、年々の生産物のうちで、資本を回収するために、はじめから予定されている部分は、それがその生産的労働の全量をあますところなく活動させるまでは、いいかえれば、それが使用されたその方法によって活動させるいっさいの生産的労働を活動させるまでは、けつして生産的労働の人手の扶養にふりむけられはしない。この職人は、自分の陳儀。ソのある部分をこいうふうに使いうる以前に、まず仕事をなしとげることによつ自分の賃金を稼得しておかねばならない。そのうえこいう部分というものは、一般に小さなものでしすない。すなわち、それはこの職人がそれなしにすませられるような収入に過ぎず、生産的労働者たちがそれをたくさん持っているなどということとはめつたにない。とはいえ、一般にかれらは多少ともそれをもっているものであって、租税の支払いの場合には、かれらの数が大であるということが、かれらの分担保額が小であるということがある程度つぐなうのであろう。それゆえ、土地の地代と資材の利潤とは、どこへ行つても、生産的な人手がその生活資料をひきだす主要な源泉なのである。

これらの収入こそ、一般にその所有者それなしにすまされる最大の余地の二つの部類の収入である。これらの収入は、生産的な人手と生産的なそれとの双方を無差別に扶養しようであるう。とはいえ、これらの収入は、多少とも後者のほうを偏愛しているように思われる。大領主の経費は、一般に勤勉な人々よりもいっそう多くの怠惰な人々を食わせている。富商は自分の資本では勤勉な人々だけしか扶養しないけれども、自分の経費では、自分の収入の使途において、ふつうは大領主とまさに同一部類の人々を食わせているのである。

〔生産的な人手の割合は、利潤および地代と、資本を回収する生産物との割合に依存する〕

それゆえ生産的な人手と生産的なそれとの割合は、どのような国でも、年々の生産物のうちで、土地か生産的労働者の手かのいずれかから出てくるや否や、資本を回収するために予定された部分と、地代または利潤のいずれかとして収入を構成する部分との割合に依存することが非常に大である。この割合は、富国では貧国でのそれとははなはだしく異なっている。